

様式第4号(第6条関係)

政務活動費収支報告書

令和5年3月27日

島田市議会議長 大石 節雄 様

議員氏名 村田 千鶴子

令和4年度の政務活動費について、次のとおり報告します。

収入の部

単位：円

項目	決算額	摘要
政務活動費交付金	200,000	
計	200,000	

支出の部

単位：円






項目	決算額	摘要
調査研究費		
研修費	33,600	地方議員研究会セミナー
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
その他の経費		
計	33,600	

政務活動費残高 166,400 円

※ 調査研究の概要及び領収書を添付してください。

政務活動費収支報告書

項目	支出明細	領収書貼付番号
研修費		33,600円
	地方議員研究会主催 CKセミナー ●基礎からわかる認知症問題 〃 学校統廃合	
	・旅費 13,600円	1
	・研修会受講代 20,000円	2
計		33,600円

	議 長	副議長	事務局長	次 長	係 長	担 当
決 裁						

領収書貼付 用紙の番号	1
----------------	---

政務活動出張申請書

令和4年6月20日

島田市議会議長 大石節雄 様

島田市議会議員 村田千鶴子 

市政調査研究（調査研究・研修）のため、下記に出張をいたく届け出ます。

出張年月日	令和4年 7月 7日(木)
出張先	リファレンス新有楽町ビル(新有楽町ビル2階) 東京都千代田区有楽町1丁目12-1
出張の目的	研修名 基礎からわかる認知症問題  基礎からわかる学校統廃合  主催者 地方議員研究会 大阪府大阪市北区梅田1-2-2 上記、研修に参加する為
行程・利用交通 (交通手段の理由)	別紙の行程表（交通費計算書）による。
旅費	別紙 政務活動出張旅費支出伝票による

	議長	副議長	事務局長	次長	係長	担当
決裁						

領収書添付 用紙の番号	
----------------	--

**政 務 活 動 出 張 旅 費 支 出 伝 票**

出張日	令和 4 年 7 月 7 日 ~ 令和 4 年 7 月 7 日			
出張先	リファレンス新有楽町ビル			
旅費	交通費	宿泊費	日当	参加者負担金等
下記計算の 基礎参照	13,600円			
			計	13,600円

計算の基礎

旅 程	島田 ~ 東京 ~ 有楽町 ~ 東京 ~ 島田 ~	合計	417.2 km
鉄道運賃	※601キロ以上は往復割引適用(同一経路のみ)、地下鉄等は2キロ以上から ↓片道キロ数		
	島田 ~ 有楽町	( 208.6 km )	往復 7,480 円
	~	( km )	往復 円
	~	( km )	往復 円
	~	( km )	往復 円
			計 7,480 円
加算運賃 (JR北海道、四国、九州)		km	円
			円
鉄 道 運 賃 計			7,480 円
特急料金等	※乗継割引利用な場合は利用、座席指定の可否確認、片道キロ数確認		
新幹線	静岡 ~ 東京	( 180.2 km )	往復 6,120 円
在来線特急	~	( km )	往復 円
在来線急行	~	( km )	往復 円
座席指定料金	~	( km )	往復 円
車賃(バス・タクシー)	~	( km )	往復 円
航空賃、船賃	~		往復 円
交 通 費 合 計			13,600 円
宿泊料	@13,100 × 泊		円
日当	@2,600 × 日 + @1,300 × 日		円
	↓日当の調整がある場合は、理由を記載すること ( )		
その他			円
旅 費 合 計			13,600 円

領 収 書 等

項 目	研 修 費		
支出明細	研修費受講代	領収書貼付 用紙の番号	2

領 収 証

2022 年 7 月 7 日

村田千鶴子 様

★ ￥20,000

但 7/7 10時～ 基礎からわかる認知症問題  
7/7 14時～ 基礎からわかる学校統廃合  
研修会受講代として

上記正に領収いたしました

地方議員研究会  
〒530-0001  
大阪府大阪市北区  
大阪駅前第2ビル2階  
TEL 050-6868-9678



## 調査研究報告書

令和5年3月27日

島田市議会議長 大石 節雄 様

島田市議会議員 村田 千鶴子

令和4年度の調査研究テーマに基づく活動等について、次のとおり報告します。

### 1. 福祉・教育・環境問題について

#### (1) 福祉：

##### ■R4.7.7 (木) .会派にて地方議員研究会主催 CKセミナーに参加

講師 宮本正一氏「基礎からわかる認知症基礎問題」受講

・脳の正体とは⇒症状別の認知症対策⇒自分が認知症になったら？と考えてみる大事さ⇒アルツハイマーと認知症の違いは？⇒認知症予防について提言

●考 察：高齢化の進展とともに、認知症患者数も増加している昨今、認知症の最大の原因が加齢であると言われている。

加齢による物忘れなのか！それとも認知症による物忘れなのか！・・・超高齢化社会において増え続ける認知症とどう向き合っていったらいいのか、また、どう対応していったらよいか等、ご教授いただきました。

##### ■R.9.12.(月) 9月議会 (一般質問)

新庁舎の建設に伴う島田市民総合施設プラザおおりの空きスペースの一角に、【常設で障がいのある方の就労の場として活用できないか】当局に質す

↓

「施設外就労支援」を目的とした、「プラザおおり空きスペース」の提供について、一番大切なことは、作業の支援を行う障害福祉サービス事業所の意向

の確認とともに、それぞれ特性のある障害のある方が、これまで穏やかに働いてきた作業環境が変化することに伴う対応面等も十分考慮する必要があり、場所の提供にあたっては整理しなければならない様々な課題等があると考えます。市としては、今回、議員からご提案があったので、まずは障害者支援事業所へ相談してみたいと考えています。

## (2) 教育：

### ■R4.6.13 (月) 一般質問

#### I 山中新教育長に教育行政に臨む所信を伺う。

- ・現場を重視＝就任後に市民の皆様や現場で見聞きしたことを反映させたい。
- ・市長部局との連携を充実＝「応援都市 島田」の実現に向け応えていきたい。

#### II 本年度から導入される小学校※「教科担任制」に対する当市の方針を伺う。

文部科学省からは、小学校5・6年生の外国語、理科、算数及び体育について優先的に進めるように示されている。本市でも主にその学年、教科で進めたいと考えている。 ※中学校と同じように教科ごとに先生が替わって学ぶ

#### III 第三小学校学区から進学する指定校の見直しについて質す。

令和3年11月定例会にて濱田前教育長が答弁したとおり基本的な考えに相違はなく、地域の総意である意思統一が見られた場合には、検討しざるを得ない。

### ■R4.7.7.(木) 会派にて地方議員研究会主催 CKセミナーに参加

講師 宮本正一氏「基礎からわかる学校統廃合」受講

- ・なぜ統廃合の議論か？ →少子化に対応した活力ある学校教育 →廃校活用の官民連携事例 →学校の適正規模と適正配置

- 考 察：当市の北部4校の統廃合の現状を鑑み、全国的に統廃合すべき

状況にあるのか？廃校となる学校は、地域の歴史であり、拠点であるので、住民の思いが反映された跡地利活用の先進事例等をご教示いただきました。全国的に市町村合併とともに法律的に自治体の公立小・中学校の適正規模・適正配置が求められている中で、各自治体の実情に応じて取り組んでいることを理解いたしました。

## 2. 賑わいあるまちづくりについて

### ■R5.3.7.(月) 緑風しまだ代表質問

諏訪原城は、武田・徳川両氏にゆかりのある戦国時代の山城です。

令和5年度は築城から450年という記念すべき年であり、また徳川家康を主人公とするNHK大河ドラマ「どうする家康」の影響からも、注目を集め諏訪原城跡への来訪者の増を大いに期待する。この放映ブームに便乗し、諏訪原城ビジターセンター（平成31年3月に見学者に解かりやすく諏訪原城跡の歴史説明の展示）の運営収支の増とともに地元の地域経済振興策について質す。

↓

1. ビジターセンター内に設置してあるカプセルトイの本来の楽しみ方（ガチャガチャで何が出るのかの楽しみや、300円以上のものが当たりとしてでるようなドキドキワクワクするような工夫）や、コレクターが飛びつくような商品及び500円シリーズの商品開発についての考えは？

※現在、ビジターセンターはシルバー人材センターに委託しており、現金の取り扱いができないため、カプセルトイ方式にて商品を一律300円で販売。

（カプセルには関係なくお金を投入すれば自分のほしい商品を購入：諏訪原城や牧野城御城印・クリアファイル・ハンドタオル・缶バッジの商品を製作）



2 基設置しているので、商品内容・金額を見直し、1基は他の金額での設定を考えていく。今後、民間業者や地元の団体や高校生などとコラボして、山城ファンや歴史愛好家の好むような付加価値をつけた商品開発を製作する。

2. これから来訪者が多い土曜、日曜日に地元の人にブースを提供して販売を許可する考えはないか？



諏訪原城跡現地で開催するイベントで、菊川の里ごりやくの会、金谷コミュニティ足軽応援隊などに声かけをして販売機会を設けるよう調整したい。

3. 地域経済振興策として、私は島田市全体の来訪者を増やす観点から、シェアサイクルを導入して、周遊めぐりができるようにする考えはどうか？



・シェアサイクルの導入については、本市のまちなかの活性化における移動手段として検討したことはあるが、運用面などの条件整理が整わず導入に向けての方針とはなっていない。シェアサイクルは、他の人と自転車を共有し、必要なタイミングで使うことができるサービスであるが、導入に際しては、公共交通機関の補完や、利用促進など両者が補完しあって行われるべきものと認識している。そのため、観光面では、今あるレンタサイクル事業を継続するとともに、取り扱う拠点施設の拡大に向けて、導入範囲の拡大に向けてサイクルイベントの開催や、ニーズ把握に努めているところである。

・諏訪原城跡では、静岡県サイクルツーリズム協議会に協力し、ビジターセンターにサイクルスタンドの設置やサイクリスト応援自動販売機【自転車に乗る人のための軽量かつコンパクトな設計でキャッシュレス対応となっている自販機】を設置し、飲料水のほか、パンク修理キットの販売をしている。

・レンタサイクルの取り扱い場所も含めて検討したい。

### 3. 市の抱える諸問題について

#### ■R4.8.23.(火)：現場視察（コロナ禍での視察にて子育て応援課に帯同を依頼）

厚生教育分科会において、重要案件のひとつとして「放課後児童クラブ運営事業」が挙げられた。その理由は、公設民営クラブが令和2年から直営から委託となり適正に運営されているか検証することが主眼である。

※16クラブ中15クラブ：シダックス大新東ヒューマンサービスに包括委託

〃 1 〃：社会福祉法人 五和会

・第四小学校区（第四小）⇒北部4小学校区（伊太小）⇒五和保育園ゆめっこ（五和小）⇒第三小学校区（第三小）⇒第五小学校区（第五小）の5か所



#### ◆包括委託されているクラブの運営について

メリット①本部からすぐに指導員の補充ができる。不向きであれば交代。

②旅行会社とタイアップしてオンラインにて世界旅行体験等（人脈）

③直営より遊具等の増えた ④毎月全体会を開き情報交換

デメリット①シフトの補充はできるものの、パートにて仕事が任せられない。

②指導員の体制（コロナ禍にて休憩時間がしっかりとれない）

③県の研修（労務管理）を受講すれば処遇改善されるが、実践的に繋がらない。

#### ◆五和会による運営について

メリット①待機児童がでて、運営している民設民営の「みなっこ」に

保護者の同意の元、利用してもらうことができる。

②県の研修以外に、年4回、外部者を講師に招き現場の指導及び

子どもとの関わり方をみていただき次の週で勉強【現場指導】

デメリット①時間が短いので若い人の人材確保が難しい（40代以降のパート）

●考 察：小松原こども未来部長、村上子育て応援係長と帯同視察

視察を通して、コロナ禍の中で、がんばってくださっている指導員の姿に敬意を表します。主に主任の方に様子を伺がったところ、共通して学校との信頼関係が大事である。学校で何かあった場合には、事前に子どもの様子を知らせてもらえば対応しやすいとの意見や、保護者への対応は統一できるよう本部としての方針を共通認識させるべきとの意見等ありました。

担当課はパイプ役となり、事業者にしっかりとした指導ができているのか、また、放課後児童クラブの待機児童の課題解決に向けても注視してまいりたいと思います。

# 出張報告書

令和4年7月20日

島田市議会議長 大石 節雄 様

緑風しまだ

島田市議会 村田 千鶴子<sup>印</sup>

次のとおり出張しましたので、報告します。

出張年月日	令和4年7月7日(木)
出張先	地方議員研究会主催 CKセミナー 東京都千代田区有楽町12(新有楽町ビル2階)
出張の目的	講師：宮本 正一氏(日本公共経営研究所) 基礎からわかる認知症問題(10:00~12:30) 基礎からわかる学校統廃合(14:00~16:30) 上記の研修に参加する為
報告事項	別紙のとおり

7月7日(木) 10:00～

基礎から分かる

認知症基礎問題

～議員20年の経験から

語る基礎講座～

■セミナーに入る前に

講師より各受講者に対し、

なぜこの講座を学びに参

加したのか?の質問あり

■ そもそも

アルツハイマー病とは

講師：宮本正一氏：(日本公共経営研究所・55歳)

・プロフィール⇒ボストン・ウェントワース工科大学卒業後、  
大阪市立大学大学院医学研究科で医学博士号(公衆衛生学)取得。  
平成7年に27歳で寝屋川市議会議員に初当選し5期20  
年在職。大阪府生まれ。

高齢化の進展とともに、認知症患者数も増加している昨今、  
認知症の最大の原因が加齢であると言われている。

加齢による物忘れなのか!それとも認知症による物忘れな  
のか!・・・超高齢化社会において増え続ける認知症とどう向き  
合っていたらいいのか、また、どう対応していったらよいか  
等、示唆していただきたい。

厚生労働省データより<脳の耐用年数=45歳>

年	認知症患者人口	対高齢者人口
2012 (H24)	462万人	7人に1人
2025 (R7)	700万人	5人に1人

※推計では2025年は人口の20%が認知症になる

●脳の正体：

古代エジプト(紀元前5000年)

⇒心は心臓に宿る との考え

ギリシャ(紀元前400年)⇒心は脳【奇人扱い】

西暦1500年(安土・桃山)⇒心は脳⇒解剖

※心理学を学ぶ者は、脳の勉強をすべきである!

①脳の正体：今

- ・成分：脂質 60% タンパク質 40%
- ・重量：150ml の髄液に浮く体重の 2%

※500ml のペットボトル 2 本を入れた袋を中指で持ち上げた  
重さが脳の重さだと実体験する → かなり重たい

②脳の原動力

ブドウ糖⇒脳の 1 日消費カロリーは約 500 kcal

(ビタミン B1 必須：豚肉、焼き海苔等)

神経伝達物質⇒脳内には、100 種類以上存在

(ドーパミン：カテコールアミン系)

※ドーパミンが欠乏⇒パーキンソン病が起こりやすい

炭水化物のダイエットはよくない・糖質カット (イライラ) X

神経伝達物質と病気

伝達物質	ニューロン軸索からの 放出が多すぎる	ニューロン軸索からの 放出が少なすぎる
ドーパミン	統合失調症	パーキンソン病 (症候群)
ノルアドレナリン ドーパミン セロトニン	不安・そう病	うつ病
アセチルコリン	パーキンソン病 (症候群)	アルツハイマー病=認知症

● 認知症は  
どんな病気？

【 認知症は症状で、アルツハイマー病は病名である 】

分類(全体に対する割合)	原因・兆候
アルツハイマー型認知症 (約 50%無症候性)	海馬を中心に脳の萎縮、短期記憶力が低下
レピー小体型認知症	レピー小体というたんぱく質出現、脳神経細胞が減少
脳血管性認知症	脳血管障害により脳が部分的にダメージを受ける
前頭側頭葉変性病	前頭葉・側頭葉の萎縮が出現、自発性・社会性が低下
分類	基本カルテ【 認知症は症状によってカルテが違う 】
アルツハイマー型認知症	長期記憶が残存、それを活かして音楽療法等に参加 上書きを頻度を高める
レピー小体型認知症 (約 20%)	幻視を訴えられたら、話をあわせて安心させてあげる 一緒に俳優として競演する
脳血管性認知症 (約 15%)	消極的な生活が見られるので、様々な活動への参加促進 色んな商品を用意する
前頭側頭葉変性病 (ピック病)	異常行動を強引に止めさせず、笑顔で対応 保育園の子ども対応と類似することもあり認知症施策
●これからの 認知症への取り組み	推進総合戦略(新オレンジプラン=安倍内閣 ～認知症高齢者等にやさしい地域づくり 2015年1月～ ① 小・中学校で認知症サポーター養成講座を開催 ② 認知症初期集中支援チームの設置 ③ 高齢運転者の交通安全の確保 ④ 成年後見制度の活用促進 ⑤ 生活の支援(ソフト・ハード面)の整備 ⑥ 就労・社会参加支援

◆ ま と め

主な神経伝達物質 →

認知症とは：

アルツハイマー病その他の神経変性疾患

ノルアドレ ナリン	セロトニン	ドパミン	アセチル コリン
興奮・意欲 不安・集中力	情緒・食欲 運動・睡眠	快感・学習 意欲・集中力	学習・記憶 意識・睡眠

脳を五感別に解剖 →

【 大脳表面積割合 】

脳みその94%が見た目と音を感じている！！

視覚	聴覚	臭覚	触覚	味覚
83%	11%	3,5%	1,5%	1,0%

早期治療に正しい判断が求められる中、MRI検査では、レピー小体型認知症の人は、脳の萎縮が目立たないことがあるので健康な人との区別がほとんどつかない場合がある。また、老人性うつ病と診断されるなどの課題がある。

解決策として

1.精密に検査できる環境づくり：

ドパミン神経の状態を見るスペクト検査体制の整備

II.専門的に診断できる医師の確保



7月7日(木) 14:00～

基礎からわかる

学校統廃合問題

～議員 20 年の経験から

語る基礎講座～

■ 我が国が直面する

学校統廃合

■ セミナーに入る前に、

宮本講師より、受講理由を尋ねられました。

私は、本市では統廃合ありきにて進められている現状を鑑み、根本的に全国的に統廃合すべき状況にあるのか、

そして、学校は地域の歴史であり、拠点にて、廃校となる学校の利活用について住民の思いが反映され、廃校としての新たな価値が見いだされることが肝心であると考えます。先進事例をご教示願いたいと思い、受講しました。

① 通知から知る文部科学省のスタンス (平成 27 年 1 月)

★公立小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き

の策定について (通知) ～以下抜粋～

・学校教育においては、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望まれる。

・このため、第 4 条により、公立小学校・中学校の学級数の標準や距離の条件を示すとともに、「公立小・中学校の統合方策について」「学校統合の手引き」及び「公立小・中学校の統合について」を発出すること等をもって、学校規模の適正化や学校の適正配置を推進するよう求めてきた。

↓

近年、家庭及び地域社会における子供の社会性育成機能の低下や少子化の進展等を背景に、学校の小規模化に伴う教育上の諸課題がこれまで以上に顕在化することが懸念されている。

↓

■新教育委員会制度

公立小学校・中学校の設置者である各市町村においては、それぞれの地域の実情に応じて、教育的な視点から少子化に対応した学校づくりが求められている。

※その際、学校統合により魅力ある学校づくりを行う場合や、小規模校のデメリットの克服を図りつつ学校の存続を選択する場合等の複数の選択があると考えられる。

●学校統合の検討に際して設置者が留意すべき点

平成 26 年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により新設された総合教育会議の活用等を含めた首長部局との緊密な連携を図ること

※総合教育会議：①教育委員長と教育長の職を一本化

②全ての自治体に総合教育会議を設置

③教育に関する大綱を首長が策定

地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的とする。

(学校基本調査より)

	児童数	学校数
公立小学校	S33 年約 1340 万人	S32 年 26,755 校
	H25 年約 656 万人	H25 年 20,836 校
公立中学校	S37 年約 703 万人	S23 年 15,326 校
	H25 年約 326 万人	H25 年 9,784 校

<p>■まち・ひと・しごと創生法</p>	<p>人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続可能な社会を創生する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 少子高齢化の進展に的確に対応</li> <li>② 人口の減少に歯止めをかける</li> <li>③ 東京圏一極（人口の過度の集中）の是正</li> </ul>
<p>●廃校の官民連携の事例</p>	<p>(直営) 寝屋川市：大阪府</p> <p>事例 1 市民交流センター・教育研修センターとして利用 → 直営で運営し、総合型地域スポーツクラブに一部無償賃貸</p> <p>(無償賃貸) 南あわじ市：兵庫県</p> <p>事例 2 アグリミュージアム NADA として利用 ＝農業研修・美食観光・体験観光ができる複合施設 民間企業が市と 30 年間無償賃貸契約</p> <p>(有償賃貸) 大東市：大阪府</p> <p>事例 3 アクティブ・スクエア・大東として利用 ＝スポーツ合宿・企業合宿も可能な宿泊施設 民間企業と市が有償賃貸契約</p> <p>(売却) 淡路市：兵庫県・完全民営化 (2 億 5 千万円購入)</p> <p>事例 4 のじまスコーラとして利用＝カフェ → 地元で採れた野菜を使ったパスタ、カレー、サラダを提供</p>

## ◆ ま と め

1. 小・中学校統廃合の背景には、中長期の少子化の進展とともに、市町村合併によって法律的にやらざるを得なかった要因がある。
2. 学校の統廃合の選択にあたっては、首長・教育長の決意と執念で推進するとともに、廃校の利活用においては公金収入の増を目指すことが重要である。

## 【 考 察 】

私はまずびっくりしたことは、今回のセミナー受講は、課題としている問題を重視して参加したため。講師については全く気にかけず、認知症問題は精神神経医学分野の方、学校統廃合問題は教育分野の方だと思っていたところ、同一講師であることに興味が湧きました。

宮本氏のプロフィールをお聞きすると、医学博士号（公衆衛生学）を取得・「脳の間行動の関係」を研究し解剖学講座の開講、経営学修士を取得。長きにわたり寝屋川市議会議員を務め、橋本とおる大阪府知事選等、12の選対本部で事務局長を歴任、現在は吉野町役場政策アドバイザー、「日本公共経営研究所」の代表を就任しておられ、多岐にわたり精通しており内容も豊富でわかりやすい研修でした。特に「議会は大株主である」その責任【市民の満足度重視】を果たしてほしいという言葉が議員経験者こそと私の胸に深く残り、その視点を改めて痛感しました。

認知症問題については、最大の原因が加齢であり、超高齢化社会で暮らす私たち誰もが起こりうる身近のもの

捉え、精密に検査できる体制及び専門的に診断できる医師の確保にむけて取り組むとともに、機会があれば認知症について島田医師会とも懇談してまいりたいと思います。

学校統廃合問題は、全国的に市町村合併とともに法律的に自治体の公立小・中学校の適正規模・適正配置が求められている中で、各自治体の実情に応じて取り組んでいることを理解しました。また、廃校となったと言え地域の財産でもありますので、利活用については、当局にとっては、公金支出が減るかどうか！公金収入がふえるか！の観点から、地域住民にとっては、有益な施設となったかどうかをしっかりと検証していきたいと思います。

私は、当局に対して、その現実を受け入れなければならない当事者の方々に、統廃合の丁寧な説明とともに、地域の大切な拠点【学校】の跡地活用についても、地域住民の意向を十分に尊重するよう求めてまいりたいと思います。

残念ながら、北部4校の跡地活用について住民の意向がどれ程、酌み入れられているのか疑問であり、今後の4校の廃校利活用について注視してまいりたいと思います。

本日の研修を踏まえ、コロナ禍の状況を見ながら、議員活動を通じて市民の皆様（高齢者ふれあいサロン、学校関係者等）に周知するとともに、これからの当市の学校の在り方については議会でも取り上げていきたいと思っています。